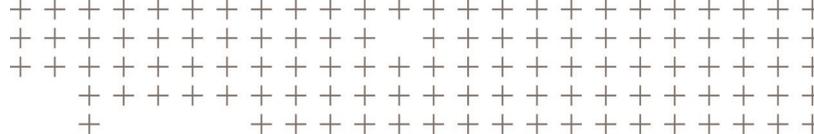


リリースノート



Trimble Access™ ソフトウェア

バージョン 2017.10
改訂 A
2017 年 3 月

法的情報

Trimble Inc.

www.trimble.com

著作権と商標

© 2009-2017 年, Trimble Navigation Limited. 著作権所有。

Trimble、地球儀と三角形のロゴ、Autolock、CenterPoint、 FOCUS、 Geodimeter、 GPS Pathfinder、 GPS Total Station、 OmniSTAR、 RealWorks、 Spectra Precision、 Terramodel、 Tracklight、 およびxFillは、米国登録商標特許庁に、そしてその他の国々で登録されたTrimble Inc. の登録商標です。

Trimbleと地球儀と三角形のロゴは、米国やその他の国々で登録されたTrimble Inc. の登録商標です。

Access、 FastStatic、 FineLockGX、 RoadLink、 TerraFlex、 Trimble Business Center、 Trimble Geomatics Office、 Trimble Link、 Trimble RTX Trimble Survey Controller、 Trimble Total Control、 TRIMMARK、 VISION、 VRS、 VRS Now、 VXおよびZephyrは、 Trimble Inc. の商標です。

WM-Topo、 TRIMMARK、 Zephyr は Trimble Inc. の商標です。

Microsoft、 ActiveSync、 Excel、 Internet Explorer、 Windows、 Windows Mobile、 Windows VistaおよびWordは、 米国および/またはその他諸国におけるMicrosoft Corporationの登録商標または商標です。

Bluetooth という言葉のマークやロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有しており、Trimble Inc. は許可を受けてそれを使用しています。

Wi-FiはWi-Fi Allianceの登録商標です。

その他の商標はそれぞれの所有者に帰属します。

本ソフトウェアの一部はIndependent JPEG Groupの製品に基づいており、RSA Data Security, IncのMD5 Message-Digest Algorithmを使用しています。

詳しい著作権および商標情報については、 *Trimble Access* ヘルプをご参照ください。

目次

一般測量	4
道路	8
パイプライン	9
トンネル	10
採掘鉋	11
Trimble Installation Manager	11
インストール情報	12
ソフトウェアとハードウェアの必要条件	14

本リリースノートには、Trimble® Access™ソフトウェアバージョン 2017.10に関する情報が掲載されています。

一般測量

本節では、特徴、改善点、解決された問題などについて説明します。これらは他の Trimble Accessアプリケーションにも適用されます。

サポートされている新しいハードウェア

Trimble T10 Tablet

Trimble Accessバージョン2017.10は、Trimble T10 Tabletに対応しています。

Trimble T10には大型10.1インチLEDディスプレイが搭載され、1日屋外での作業を考慮して設計されています。MIL規格STD-810G適合するTrimble T10はIP65に準拠。雨、泥、ほこり、砂、極端な温度環境、および落下や衝撃から保護されています。Trimble T10は、Windows®10オペレーティングシステムに対応しているため、現場からオフィスまで完全なソリューションを提供しています。

さらに詳しい情報につきましては [一般測量ヘルプ](#)のTrimbleタブレットの項目をご参照ください。

Trimble C3およびC5トータルステーション

Trimble Accessバージョンの2017.10は、新しいTrimble C3およびC5トータルステーションに対応しています。

コンパクトで軽量、堅牢に造られたこれらの機械式トータルステーションには、強力な長距離EDMとオートフォーカス技術が搭載されています。

C5 トータルステーションは、搭載されるTrimble Accessソフトウェアで実行されます。C3は、Trimble Accessを実行中のコントローラに接続されたトータルステーションとして対応しています。

さらに詳しい情報につきましては [一般測量ヘルプ](#)のTrimble C5トータルステーションの項目をご参照ください。

LTI TruPulse 200X

Trimble Access version 2017.10 supports the Laser Technology TruPulse 200X laser rangefinder.

新しい特長 と機能の強化

SX10ターゲット照明ライト

Trimble Accessは、Trimble SX10 スキャンターステーションに接続されているとき、ターゲット照明ライト (TIL) に対応するようになりました。これで、暗い環境で作業する際も、ターゲットをより簡単に確認、特定することができます。

To use the target illumination light, you must update your SX10 firmware to version 1.86.2.

さらに詳しい情報につきましては [一般測量ヘルプ](#)のターゲット照明の項目をご参照ください。

Trimble R10を携帯端末ホットスポットとして使用

受信機をWi-Fiアクセスポイントとして使用している場合、Trimble R10受信機などのWi-Fi対応受信機をモバイルWi-Fiホットスポットとして使用できるようになりました。

さらに詳しい情報につきましては [一般測量ヘルプ](#)の受信機設定の項目をご参照ください。

レバー延長アンテナ測量方法

Trimbleとの統合に対応しているすべての受信機のアンテナ測量方法リストで、0.150 mのレバー延長が利用可能になりました。アンテナ測量はこれまでTrimble R10受信機のみで利用可能でした。

杭打ちレポートでマテリアルの厚さが表示されるようになりました

デジタル地勢モデル (DTM) を基準に道路や線形を杭打ちを行う場合、DTMと同様に設計を基準にした切土/盛土値を表示するように選択できるようになりました。今までは、設計またはDTMを基準とした切り/盛り値のみを表示していました。

この新機能は、特に道路を建設する際にマテリアルの厚さを確認することにとっても便利です。厚みを確認するには、前の層に対してDTMを定義してから、現在の層のくい打ちを行う時点で、ここまで切土/盛土フィールドで設計 + DTMを選択します。

固定局コードの属性の変更がすぐに適用されるようになりました。

開いている測量画面のコードフィールドを含み、基準コートの属性を使用するの設定に行った変更がすぐに適用されるようになりました。

補助GPS装置からのNMEA GGAセンテンス

Trimble Access は、GNSS NMEA GGAセンテンス (\$ GNGGA) を生成する補助GPSデバイスに対応するようになりました。補助GPSデバイスには、タブレットに統合されたGPSデバイスや、Bluetoothを介して接続されたTrimble以外のGPSデバイスが含まれます。補助GPSは、GPS検索、ポイントへのナビゲーション、およびマップ内のポジションの表示といった用途に、従来式の測量で使用することができます。

追加のCOMポートに対応するようになりました

COM4およびWindows Mobileデバイスにあるその他のポートでUSBシリアルデバイスを対応するために、測量スタイルのコントローラポートフィールドに使用可能なCOMポートのリストにCOM3から最大COM8まで含まれるようになりました。以前のバージョンでは、COM1、COM2、およびBluetoothポートのみに対応していました。

FOCUS 30/35のAutolockコリメーションでターゲットを20mまで近づける

Spectra Precision FOCUS 30/35トータルステーションを調整する場合、Autolockコリメーションでターゲットに照準を合わせるときに許容される斜距離が20m~300mになりました。今までは、90m~300mでした。

M3コントローラでジョブファイルを異なる場所からコピーする

Trimble M3コントローラを使用しているとき、外部ドライブなど新しい場所からジョブファイルをコピーできるようになりました。測量中に収集されたジョブに関

連付けられたファイルは、同時にコピー可能です。さらに詳しい情報につきましては、[一般測量ヘルプ](#)の別の場所へジョブファイルをコピーするにはおよび別場所からジョブファイルをコピーするにはの項目をご参照ください。

アラートの表示方法が向上されました

警告メッセージが長い場合は、複数の行に分けて表示されるようになりました。今までは、警告画面のメッセージは1行で表示され、長いメッセージの場合、文の最初と最後が切れていました。

解決された問題

- プロジェクト高さを入力することができない：プロジェクト高さが定義されていないジョブを開くときに、プロジェクト高さを入力するように促すメッセージが表示されるが、入力した高さを確認してメッセージを閉じるOKボタンが正しく表示されない問題が解決されました。
- ステーション設置中に接続が中断された後、機器の向きが正しくない：SX10スキャニングトータルステーションまたはSシリーズトータルステーションを使用しているとき、ステーション設置が切断されているときにそのステーション設置の保存を試みると、そのステーション設置が保存されていないのに保存されているかのように見える問題が解決されました。この問題は、SX10のWi-Fi接続が断続になったときに通常発生しましたが、シリアル接続を手動で切断して再接続した場合でも発生することがありました。
- 反面でDTMの杭打ちを行う際の許容範囲外メッセージ：SX10スキャニングトータルステーションまたはS Seriesトータルステーションを反面での捕捉を有効にした状態で使用し、DTMを杭打ちする際、反面に切り替えた途端、機器が一時知的に正しいポイントに向けられた後、若干ずれてしまい、結果的に許容範囲外メッセージが表示される問題が解決しました。
- ターゲットロックモード設定が、モードまたはターゲットタイプを変更した後でも記憶しない。ターゲットをターゲットDRに変更している間にステーション設置を完了した後に、ソフトウェアがAutolock、FineLockまたは長距離FineLockを自動的に再び有効にしなかった問題が解決されました。
- ターゲットロックモード設定が、角観測を行った後でも変更しない。自動角観測の測定を行う際、ソフトウェアによって自動的にAutolock、FineLockまたは長距離FineLockの切り替えが実行されない問題が解決しました。
- 角観測の測定が自動化されない：アクティブなターゲットとパッシブなターゲットが入り交じった角観測の測定を行う際、自動角観測オプションが有効にされているにもかかわらず、測定が自動で実行されない問題が解決しました。
- 捕捉モードで複数の後視チェック観測が実行される：機器のEDMが捕捉モードになっているときにChk BSを選択した場合や、測定後にポイントの複製画面で名前の変更を選択した場合に、機器が複数の観測を測定し、保存するという後視チェック関連の問題が解決しました。
- ターゲットの遮蔽物によって現在フィールドが変更される：Autolockを有効にし、かつ中断されたターゲットを無効にした状態で地形ポイントまたは角観測の測定を行う際、遮蔽物によって見通し線が一時的に遮られたときに、地形の測定または角観測の画面で利用可能なフィールドがリセットされる問題が解決しました。
- 描画の編集内容を削除した後、SX10スナップショットが表示される：Trimble SX10 スキャントータルステーションに接続された状態でスナップショットをキャプチャする際、キャプ

チャ直後に、画像上に描画を行ってから、*Esc*をタップして変更内容を却下すると、削除したはずの描画内容を示す画像が表示される問題が解決しました。

- Surveyベーシックでターゲットを切り替えても、現在の距離がリセットされない：DRターゲットから非DRターゲットに切り替えた際、ソフトウェアが誤ってプリズム定数を過去の測定済み距離に適用してしまう問題が解決しました。この問題は表示距離だけに限られ、計算には一切影響していませんでした。今回の修正で、ターゲットモードを切り替えると、現在距離は0にリセットされるようになり、捕捉モードが無効になっている場合、ターゲットまでの測定をやり直すには測定をタップする必要があります。
- 間違ったトータルステーションの接続メッセージ：シリアルケーブルを使用してトータルステーションを接続する際、トータルステーションに接続中のメッセージに間違って無線機設定の詳細記述が表示される問題が解決しました。
- 不正なアンテナ高さの警告：例えば、別の測定方法を使用した後、アンテナマウントの底部までの測定を行った際、アンテナ高さに有効なゼロ値を設定したときに、不正なアンテナ高さの警告メッセージが表示される問題が解決しました。
- SP60/80受信機に接続時、受信機が応答していませんというメッセージが表示される：RTK測量の最中、受信機とのBluetooth接続経由でコントローラにルーティングされたインターネットデータリンクを使用してRTCM v3.2 MSMメッセージなどの大量の補正データが基準局からSpectra Precision SP60またはSP80受信機に送信された場合、時折、受信機が応答していません、再接続を試みてくださいというメッセージが表示され、測定が終了するまで消えない問題が解決しました。
- 統合測量での線形または道路の杭打ち：統合測量で、線形または道路の杭打ちを行う際、測定画面から*Esc*をタップした後、観測結果を却下するために*No*をタップしたにもかかわらず、ポイントの測定を続行した場合、保存ボタンが表示されないため、そのポイントの新しい観測結果が保存できない問題が解決しました。
- 杭打ち高さコード：高さの杭打ちを行う際、杭打ち時のポイントのコードを入力すると、入力したコードが保存されず、ポイントが不正な前回使用されたコードと共に保存される問題が解決しました。
- Staking out perpendicular to DTM:An issue when staking out using a DTM for elevation where if you changed the *Offset to DTM* to perpendicular the offset was not applied, is now resolved.This issue was introduced in Trimble Access version 2017. 00.
- Shiftキー押下によるソフトキー2列目へのアクセス：TSC3コントローラに関し、コントローラのキーボード上でSHIFTキーを押した際、ソフトキーの利用可能な2列目が時折、表示されないことがある問題が解決しました。
- 10"タブレットでスクロールバーが利用できない：Windows 10 version 1703 (Creator's update)をインストール後、Windows 10"タブレットで水平または垂直スクロールバーが動かせなくなる問題が解決しました。
- 3Dマップ内の線形：最初の要素が弧またはらせんの場合、3Dマップ内で線形が正しく描画されない問題が解決しました。
- GPS位置アイコンが3Dマップ上で更新されない：補助GPS受信機またはタブレットの内蔵GPS受信機を使用する際、GPS位置アイコンが時折、3Dマップ内で定期的に更新されない場合がある問題が解決しました。
- マラーティー語文字が3Dマップ内で表示されない：マラーティー語文字のテキスト情報が3Dマップ上で小さなボックスとして表示される問題が解決しました。

- 不正なSX10スキャンカラー：ジョブにTTMファイルが使用された場合、選択されたスキャンカラーが時折、スキャンデータに対して使用されないことがある問題が解決しました。
- アプリケーションエラー：次のいずれかを実行した際、時折見られたアプリケーションエラーが解決されました：
 - オペレーションTrimble Accessバージョン2017.00で、FOCUS 30/35自動接続オプションが有効になっている場合（これが初期設定です）。
 - レーザー一点滅を有効にした状態のFOCUS 30/35機器に接続時は、連続地形を使用します。FOCUS 30/35上のレーザー一点滅は、連続地形を使用する際、一時的に無効にされるようになりました。
 - 属性を伴う複数の特徴を有する関連付けされたジョブ内でポイントのレビューを行う。
 - 方位-距離法を用いて線のキー入力を試みるも、方位角も距離も入力しない。この問題は、Trimble Accessバージョン2017.00から始まりました。
 - Attempt to use the map and the stakeout alignment screen to access the same alignment at the same time.
 - プロジェクトの高さが定義されていないジョブを開いた後、プロジェクトの高さを入力するよう促すメッセージが開いたままの状態を短時間継続する。
 - スタイル名にバックスラッシュ(/)が含まれた測量スタイルを作成しようと試みる。
 - 機器との接続が切れた後、AT360のアクティブなターゲットの詳細を編集する。
 - AT360アクティブターゲットに接続された状態で、Trimble Accessソフトウェアを終了する。
 - Trimble Accessソフトウェアへのログインに使用しているログインモードを変更後、ソフトウェアを終了する。
 - 10インチ画面のタブレット上でソフトウェアをフルスクリーンモードで実行します。
 - マップ内に表示させるLandXMLファイルを選択し、かつそのファイルにサポート対象外のらせんタイプを伴う道路が含まれている。今回の修正で、らせんタイプがサポート対象外であるとの警告メッセージが表示され、ファイルが読み込まれないようになりました。

道路

新しい特長 と機能の強化

杭打ちレポートでマテリアルの厚さが表示されるようになりました

デジタル地勢モデル（DTM）を基準に道路や線形を杭打ちを行う場合、DTMと同様に設計を基準にした切土/盛土値を表示するように選択できるようになりました。今までは、設計またはDTMを基準とした切り/盛り値のみを表示していました。

この新機能は、特に道路を建設する際にマテリアルの厚さを確認することにとっても便利です。厚みを確認するには、前の層に対してDTMを定義してから、現在の層のくい打ちを行う時点で、ここまで切土/盛土フィールドで設計 + DTMを選択します。

サイドスロープの杭打ち

Trimble Accessバージョンの2017.10で、以下を行うことができるようになりました。

- スtring名称（String上でのStringの杭打ち時、またはStringを基準にした現在の測定時にサイドスロープを追加する。

新しいオプションにアクセスするには、ナビゲーション画面のグラフィック部分をタップして、ポップアップメニューから「サイドスロープを追加」を選択します。

切土および盛土のサイドスロープ、断溝幅（カットスロープが定義されているときに使用可能）の値を定義し、必要に応じて現在のStringとは異なるヒンジStringを選択することができます。

- サイドスロープの編集時、断溝幅の追加または編集を行うことができます：

メモ - サイドスロープの追加は、Trimble道路のみで利用可能です。

解決された問題

- 複数の縦断面線形を持つLandXMLファイル：LandXMLファイルに複数の縦断面が含まれる場合、道路がリスト最後にある縦断面を使用してしまう問題が解決されました。
- 鉄道用語を使用しているとき、調査方法フィールドがない：従来のメニュー選択オプションを使用して道路を測量する時、調査方法を有効にする際に各調査方法の関連フィールドが欠落してしまう問題が解決されました。これは、設定/言語画面で鉄道用語の使用オプションが選択されている時のみ問題となりました。この問題は、Trimble Accessバージョン2016.03から始まりました。
- アプリケーションエラー：次のいずれかを実行した際、時折見られたアプリケーションエラーが解決されました：
 - 開始点のみで定義されている道路が含まれるLandXMLファイルを3Dマップで表示します。
 - 選択された位置が切土サイドスロープから盛土サイドスロープへ（またはその逆）の移り変わりを定義する位置のとき、5DString上の局を選択する。

パイプライン

新しい特長 と機能の強化

パイプライン 検数と継ぎ手マップの更新ユーティリティ

一日の終わりに、複数のフィールド作業員から集められた継ぎ手マップデータをオフィスでマスターファイルに統合するのに、Trimble Access パイプライン検数と継ぎ手マップの更新ユーティリティを使用することができるようになりました。それからマスター検数ファイルは各現場作業員に送られ、翌日の作業に使用されます。すべての統合されたデータを含むXMLファイルもカスタムレポートフォームを生成するのに使用することができます。

ユーティリティはwww.trimble.com/Survey/Trimble-Access-IS.aspxから右側にあるダウンロードをクリックし、Trimble Accessパイプラインセクションまで進んでください。

このユーティリティは時折更新されます。最新の更新情報およびユーティリティの初リリース以降すべての更新を確認するには、ユーティリティダウンロードファイルの

パイプライン検数と継ぎ手マップ更新ユーティリティリリースノートの文書をご参照ください。

解決された問題

- 出来形処理中に更新された場合、誤ったジョイントマップファイルの詳細：出来形ジョイントマップ アイテム（溶接端、曲がり部、または開口端）を測定している最中にジョイントマップの定義に影響を与えるような属性詳細を更新して、ジョイントマップをその新しい詳細に合わせるよう更新すると、ジョイントマップの詳細が正しく更新されていませんでした。プロジェクトの後半で更新されたジョイントマップを選択するとエラーが発生する場合があります。

トンネル

サポートされている新しいハードウェア

Trimble SX10 スキャン-外ステーション対応

Trimble SX10 スキャン-外ステーションはTrimble Accessトンネルと共に使用できます。

SX10に接続している時は、トンネルを使用して、Sシリーズのトータルステーションと同じ使用方法で、定義されたステーション間隔でトンネルの横断面をスキャンすることができます。高密度のフルスキャンを実行する、またはSX10を使用してパノラマ撮影するためには、一般測量でスキャンおよびパノラマを使用する必要があります。

SX10を使用して、トンネル内のポイントを設定する場合、画面上の切替先ボタンを使用してビデオ画面に変更してから、トンネル面上の位置に印するためのガイドとしてビデオ画面の十字線（内側）を使用します。セットアウト画面に戻るには、切替先をタップして、セットアウトを選択します。または、ビデオとセットアウトの画面をお気に入りリストに追加します。

Spectra Precision FOCUS 35またはFOCUS 30トータルステーションに対応

トンネルソフトウェアが、Spectra Precision® FOCUS® 35とFOCUS 30トータルステーションに対応するようになりました。

解決された問題

- セットアウト位置：複数放射状方法によるセットアウト位置を定義するオプションが復活しました。この方法は、Trimble Accessバージョン2015.21で削除されたものです。
- 表面選択：トンネル内の位置オプションを使用しているときに表面がタップできなくなる問題が解決されました。
- 横断面アイコン：自動スキャンが選択された時横断面ボタンが表示されず、マップをワイドスクリーンに変えてしまう問題が解決されました。
- 10インチタブレットにあるアイコンのデザイン：10インチタブレットの平面および横断面ビューのアイコンのデザインが改善されました。また、平面および横断表示でアイテムが選択しやすくなりました。

- アプリケーションエラー：次のいずれかを実行した際、時折見られたアプリケーションエラーが解決されました：
 - 面が割り当てられていない位置をセットアウトします。これは、トンネルテンプレートを定義する前にセットアウト位置を定義すると発生する場合があります。面のないセットアウト位置は、トンネルが保存される時点で、テンプレートで定義された最初の表面に割り当てられるようになりました。
 - 自動は、VXスキャンオプションが選択され、ポイントコードフィールドに何もなく、ポイントが6個以下のスキャンゾーンをスキャンします。
 - 自動は、ポイントが全くないスキャンゾーンをスキャンします。

採掘鉞

サポートされている新しいハードウェア

Spectra Precision FOCUS 35またはFOCUS 30トータルステーションに対応

採掘鉞ソフトウェアが、Spectra Precision® FOCUS® 35とFOCUS 30トータルステーションに対応するようになりました。

Trimble Installation Manager

解決された問題

- Windows Mobile Device Center connection issues: An issue where it was no longer possible to connect a controller to an office computer or tablet using Windows Mobile® Device Center (WMDC) after installing Windows 10 version 1703 (Creator's update), is now resolved. Trimble Installation Manager now makes some registry setting changes to enable this to work again, but the computer requires rebooting for registry changes to take effect. If you experience connection issues, restart the office computer or tablet.

インストール情報

このセクションには、Trimble Accessソフトウェアのバージョン 2017.10のインストールに関する情報を掲載しています。

コントローラのソフトウェアとライセンスのインストール

オペレーティングシステムのインストール

新しいTrimble Tabletにはオペレーティングシステムはインストールされていません。Tabletを起動してWindows®オペレーティングシステムをインストールし、Windowsの更新を適用します。

他の全ての新しいコントローラには、オペレーティングシステムはすでにインストールされています。

今後も新しいオペレーティングシステムがリリースされますので、www.trimble.com/Survey/Controllers.aspxを適宜ご確認ください。

警告 - オペレーティングシステムを更新するとデバイスにあるすべてのデータが消去されます。インストールを行う前に、パソコンにすべてのデータをバックアップしてください。バックアップをとらないと、データを失う恐れがあります。

メモ - バージョンを変更するためにTrimble Accessのアップグレードを行うと、ジョブ（または測量スタイルなどのファイル）が変換されます。元のTrimble Accessデータファイルをコントローラからコピーしてから、オペレーティングシステムをアップグレードした場合は、新しいバージョンのTrimble Accessをインストールする前に、必ず元のTrimble Accessファイルをコントローラにコピーし直してください。このステップを行えば、元のTrimble Accessファイルが新しいバージョンのTrimble Accessに対応するように変換されます。

ソフトウェアとライセンスの設定

コントローラをご使用になる前には必ず、Trimble Installation Managerを使用して、アプリケーションとライセンスをインストールしてください。もし今までに:

- Trimble Installation Managerインストールマネージャーをインストールしたことが決して場合は、www.trimble.com/installationmanagerからインストールのための情報をご参照ください。
- Trimble Installation Managerインストールマネージャーをインストールしたことがある場合は、自動的に更新しますので、再インストールの必要はありません。スタート / すべてのプログラム / Trimble Installation Managerを選択し、Trimble Installation Managerを起動します。

詳細に関しては、Trimble Installation Managerのヘルプをクリックします。

メモ - Trimble CU コントローラでは、Trimble Access バージョン 2013.00 またはそれ以降を、Trimble CU モデル3 (S/N 950xxxxx)のみにインストールすることができます。Trimble CUモデル1と2には、以降をサポートするのに十分なメモリがありません。

バージョンの使用条件

Trimble Accessソフトウェアバージョン 2017.10をインストールして起動するには、19月 2017まで有効な保証契約が必要です。

Trimble Installation Managerを使用してバージョン 2017.10をアップグレードする際、新しいライセンスファイルがデバイスにダウンロードされます。

オフィスソフトウェアの更新

バージョンに更新した場合は、オフィスソフトウェアも必ず更新してください。この更新はTrimble Business CentreソフトウェアなどのTrimbleオフィスソフトウェアに一般測量ジョブをインポートする場合に必要です。

Trimble Installation Managerを使用してコントローラを更新する場合、Trimble Installation Managerがインストールされているコンピュータのオフィスソフトウェアも同時に更新されます。

更新に使用されなかった他のコンピュータを更新するには、以下のいずれかを行います：

- Trimble Installation Manager をそれぞれのコンピュータにインストールし、Office Updatesを起動します。
- Trimble Access ソフトウェアのソフトウェアのTrimble Update Office Softwareパッケージを www.trimble.com/support_tr1.aspx?Nav=Collection-84862から起動します。
- Trimbleデータ転送ユーティリティを使用します：
 - バージョン1.51以降をインストールして下さい。データ転送ユーティリティは www.trimble.com/datatransfer.shtmlからインストールすることができます。
 - バージョン 1.51をお持ちの場合は、データ転送ユーティリティの新しいバージョンを更新する必要はありません。Trimble Update Office Softwareパッケージのどれかを www.trimble.com/support_tr1.asp?Nav=Collection-84862から起動することができます。
- 必要なコンバータは現在 Trimble Access ソフトウェア を起動しているコントローラで入手でき、必要でしたら、Trimble Business Centerソフトウェアでコントローラからコンピュータへコピーすることができます。必要なコンバータは現在 Trimble Access ソフトウェア を起動しているコントローラで入手でき、必要でしたら、Trimble Business Centerソフトウェアでコントローラからコンピュータへコピーすることができます。

Trimble Solution Improvement Program

Trimble Solution Improvement Programは、Trimbleのプログラムがいかに使われ、どのような問題が発生する可能性があるかなどの情報を収集しますTrimbleは、この情報をもとに、最も頻繁に使用される製品や機能の向上に役立て、問題解決のお手伝いをし、お客様のニーズにお応えします参加は任意で強制ではありません。

参加を選択すると、ソフトウェアがお手持ちのコンピュータにインストールされますそのコンピュータに、Microsoft ActiveSync® 技術やWindows Mobile® Device Centerを利用してコントローラを接続するたびに、Trimble Access ソフトウェア がログファイルを生成し、自動的にTrimbleサーバへ送ります。このログファイルには、Trimble機器の用途、特定の地理的地域内でよく使用されるソフトウェア機能、問題が発生する頻度などのデータが含まれており、Trimbleが製品の修正に役立たせて頂きます。

Trimble Solution Improvement Programは、いつでもアンインストールできます。Trimble Solution Improvement Programの参加中止をご希望の場合は、コンピュータの「プログラムの追加と削除」からソフトウェアの削除を行なうことができます。

ヘルプと資料に関して

は、Trimble Access ヘルプ「文脈対応」ヘルプです。「文脈対応」ヘルプにアクセスするには、画面上部の ? をタップして下さい。

ヘルプ項目のリストが表示されます。関連項目は反転表示されています。見たい項目を開くには、その項目名をタップします。

ヘルプのPDFファイルをダウンロードするには、<http://apps.trimbleaccess.com/help>へアクセスして下さい。アプリケーションごとに異なるPDFファイルがあります。

ソフトウェアとハードウェアの必要条件

Trimble Access ソフトウェア バージョン 2017.10 は、以下にあるソフトウェアとハードウェア製品との通信に最適です。以下のバージョンより新しければ通信可能です。

Trimble ソフトウェア	バージョン
Trimble Business Center (32-bit)	2.99
Trimble Business Center (64-bit)	3.90

Trimble 受信機	バージョン
Trimble R10	5.30
Trimble R8s	5.22
Trimble R2	5.22
Trimble R8-3, R8-4	5.22
Trimble R6-3, R6-4	5.22
Trimble R4-2, R4-3	5.22
Trimble R9s	5.22
Trimble NetR9 地理空間	5.22
Trimble R7	5.03
Trimble R5	5.03
Trimble Geo7X	4.95
Trimble GeoXR	4.55
Trimble R8-2, R6-2, R4-1	4.64
5800, 5700 II	4.64
Spectra Precision SP60/80	3.31

Trimble 機器	バージョン
Trimble SX10 スキャントータルステーション	S1.86.2
Trimble S5/S7/S9 トータルステーション	H1.1.26
Trimble S6/S8 トータルステーション	R12.5.52

Trimble 機器	バージョン
Trimble VX™ Spatial Station	R12. 5. 52
Trimble S3トータルステーション	M2. 2. 30
Trimble V10イメージングローバー	E1. 1. 70
Trimble C5トータルステーション	3. 0. 0. x
Trimble M3トータルステーション	V2. 0. 4. 4
FOCUS 30/35トータルステーション の調節	R1. 6. 7

最新のソフトウェアとファームウェアのバージョンについては、下記もご参照ください。

<http://trl.trimble.com/dscgi/ds.py/Get/File-93082/Survey%20Software%20and%20Firmware.pdf>.

TSC2コントローラがサポートされなくなりました

Trimble Access のバージョン2017. 00以上は、コントローラのソフトウェア保証ステータスを問わず、Trimble TSC2コントローラにインストールできません。昨年、TSC2プラットフォームは、Trimble Accessの最近のバージョンにはスペック不足であることが分かりました。Trimble Accessの開発を継続するため、新しいバージョンのTrimble AccessのTSC2コントローラへのインストールをサポートすることができなくなりました。

TSC2コントローラは、Trimble Accessのバージョン2016. 12は継続して実行することが可能です。